

「三体小学校の三体棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立三体小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計14人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

11月7日（土）17：00～18：00 三体小学校

11月11日（水）17：00～18：00 三体小学校

(2) 発表の日時・場所

11月14日（土）9：00～9：10 三体小学校学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

三体棒踊り（さんたいぼうおどり）

(2) 由来

約140年前、西南の役の田原坂での戦いに敗れた薩摩の兵を弔うために始められたと言われている。昭和25年までは、地域行事で毎年披露されていたが、その後、途絶えてしまう。昭和51年に再び披露されるようになり、昭和61年まで敬老会と運動会で踊られていた。しかし、再び途絶えてしまい、平成4年から再び復活し、現在まで活動を続けている。

(3) 構成等

浴衣とはちまきを身に着け、5尺の棒や小太刀を持ち、左右、前後の者同士が入れ替わりながら、歌に合わせてかけ声を出すとともに、棒を打ち合う。1回当たり1分30秒程度だが、それを3回以上繰り返して行う。

5 保存会や地域との連携の具体

平成10年に三体棒踊り保存会が発足し、指導者3人、4年生以上31人で、保存会としての活動を始めた。その後、児童数の減少により、一昨年からは3年生以上（場合によっては中学生も）で構成するようになってきた。人数の減少、低年齢化はあるものの、校区を中心として、地域をあげた支援態勢が整ってきている。

必要な経費も多いが、霧島市や三体地区自治公民館からの補助を受け、円滑な活動が進められている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

参加児童は、習い事やスポーツ少年団活動にも取り組んでおり、練習回数や時間が少ない。短時間で効率よく練習をし、踊り方を習得していくために、中学生が指導に加わることもある。また、衣装の着付けについては、保護者の全面的な協力、保存会OBの保護者の支援によってできている。

7 取組の様子



【11月7日(土)体育館の練習】



【11月14日(土)学習発表会の様子】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

○ 参加児童

練習を積み重ねることで、子供たちは、徐々に上達することができた。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、運動会での披露は中止になったが、学習発表会において、保護者などへ披露することができた。子供からは「これからも地域の伝統を残していきたい。」と感想があった。

○ 保護者

練習では、保護者に衣装の着付けなどの協力をもらった。

○ 保存会

これまで伝承活動が継続している。発表までの練習や準備は、時間を要するが、地域の伝統芸能として、後世へ残し、存続させていきたい。

○ 教職員

子供たちと保護者が協力、連携して取り組んでいる姿が見られる。また、参加した子供から一体感・連帯感を生まれている。今後も学校や家庭、地域が一体となり、特色ある教育活動を展開していきたい。